

# 農業データ連携基盤 活用事例集

本資料は、農業データ連携基盤（WAGRI）の利用をご検討  
いただいている皆様に対して、WAGRI利用者の取組を参考に、  
WAGRIで**実現できるサービス**や、WAGRI**活用のメリット**などをご  
紹介するものです。

## 株式会社セラク 様の取組事例

(セラク様が提供する農業経営支援サービス「営農支援」アプリにWAGRI APIをご活用)

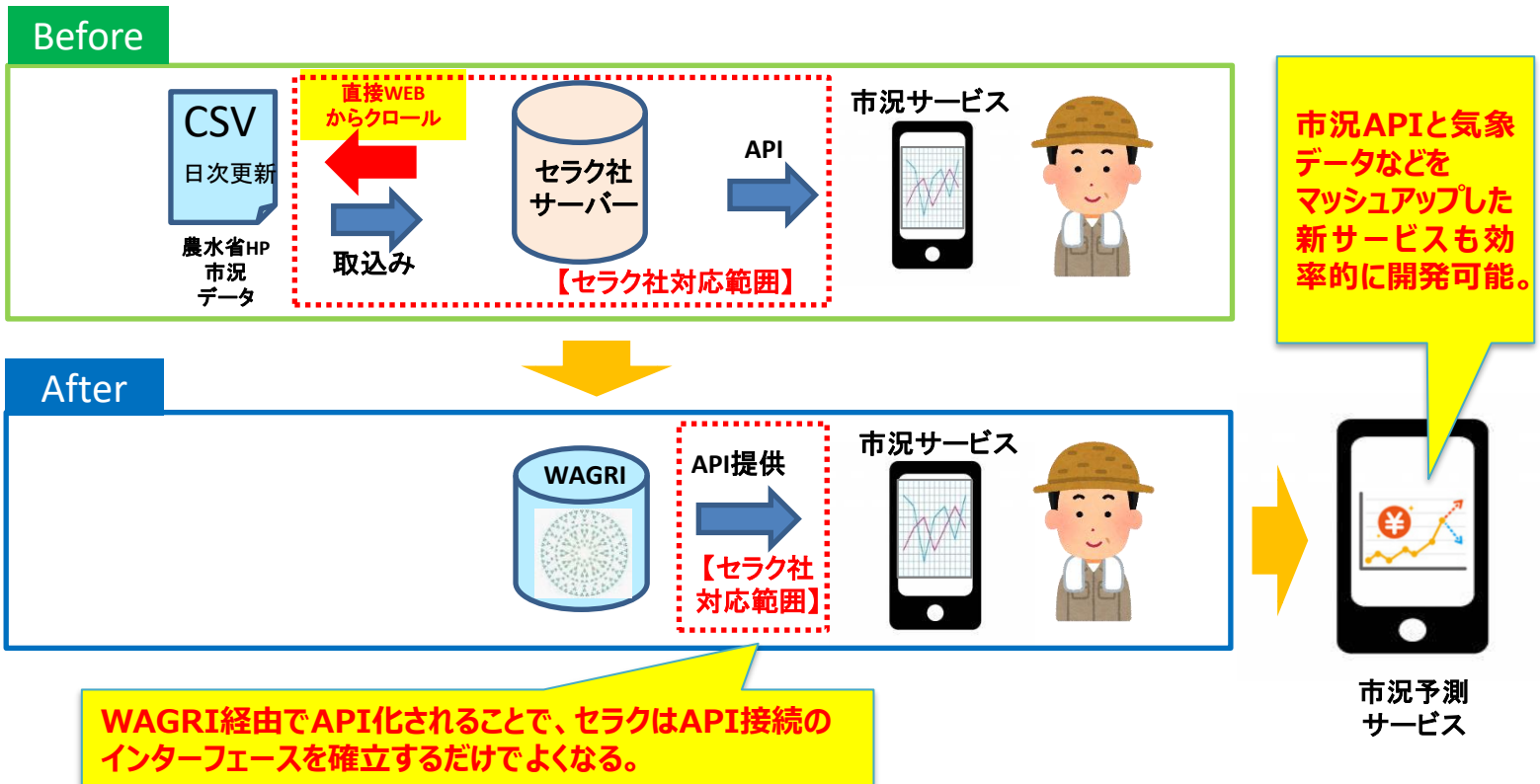
- **セラクでは、生産者・出荷者向けに圃場環境の可視化や自動制御、ITやデータの利活用、実需者や青果卸向けに契約栽培のIT化などを支援する農業ITプラットフォーム「みどりクラウド」を提供しています。**
- 「みどりクラウド」は、**施設園芸の生産者を中心に豊富な導入実績**があり、2017年に**グッドデザイン賞**、2019年に特定非営利活動法人ASP・SaaS・IoTクラウドコンソーシアム（以下「ASPIC」）が主催する**「ASPIC IoT・AI・クラウドアワード2019」のIoT部門において「委員会賞」を受賞**しています。
- 「みどりクラウド」は大きく分けると、農業生産支援のための「みどりボックス」「みどりモニタ」「みどりノート」などのサービスと、流通支援のための「みどりマーケット」（「営農支援」アプリなど）サービスがあり、**「営農支援」アプリでは市況情報や値動き情報も提供**しています。
- 今回セラクは、WAGRIの**青果物市況情報・卸売市場調査API**を「営農支援」アプリに活用して、**安定的で運用負荷の小さいデータ取り込みを実現**しています。

# WAGRIと「営農支援」アプリの連携

- 以前はセラクが、農林水産省のWebサイト上を直接クロールして日々の市況データを情報収集し、アプリで提供していました。
- この場合、Webの仕様（HTMLデザイン等）が変更されると、その都度セラク側のシステムの修正が必要になります。
- 一方、WAGRI上のAPIを活用することで、システムの手間を省き、市況データを安定的に入手することが可能になりました。
- さらに将来的にはこの「市況API」と「気象データ」などをマッシュアップした「市況予測」などの新サービスも効率的に開発できます。



(株)セラクの「みどりクラウド」アプリ上の市況情報表示画面



# WAGRI APIを活用したイメージ

## みどりクラウド「営農支援」アプリ

値動き・市況情報（青果物市況情報API/卸売市場調査APIを活用）

市場ごとの品目別の取引価格や数量など、市況の情報を表示します。  
生産者は、このデータをもとに出荷等の判断を適切に行うことが可能になります。

### スマートフォンアプリ版



### WEB版



日々の値動きや取引数量をグラフなどで分かりやすく表示します。

# セラク様にご利用されたWAGRI API

| 利用したWAGRI API     |                                 | 利用目的                             |                                    |
|-------------------|---------------------------------|----------------------------------|------------------------------------|
| 青果物市況情報API        | 「市場×品目」別の高値、中値、安値、等級、階級、量目、動向など | FreshMarketInformation           | 「市場×品目」の市況情報を表示し、生産者が出荷判断等の材料にする。  |
| 青果物卸売市場調査（都市別）API | 「都市×品目」別の価格                     | FreshWholesaleMarketSurveyByCity | 「都市×品目」の値動き情報を表示し、生産者が出荷判断等の材料にする。 |

# WAGRI活用によるサービスプロバイダー様のメリット

|                                      | WAGRI活用のメリット  | WAGRIを活用しない場合の対応等   |
|--------------------------------------|---|---|
| API連携による<br>安定的なデータ提供                | <ul style="list-style-type: none"><li>APIで提供されているため、元データのCSVデータの<b>軽微な変更程度であればAPI側で吸収できる</b>ものもあり、APIの仕様変更が発生しない限り、<b>利用ベンダー側の無用な手間はかからない</b>。</li><li>CSVデータの仕様変更に伴いAPI側の仕様変更が行われる際でも、<b>事前にAPI提供者より通知されることで、見逃し防止とともに、事前対応が可能</b>となる。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>農林水産省のWebサイト上で公開されているCSV形式のデータをWebクロールで取り込んでいるため、気づかぬうちに<b>Web上のデザインが変更されるだけでデータが取り込めなくなる可能性</b>がある。また、<b>デザイン変更後にWebクロールのプログラムの修正も必要になる</b>ため、手間がかかる。</li><li>CSVデータの仕様変更が行われる場合、<b>その変更を事前に確実に知るすべがない</b>ため、変更後にデータが正常に取得できないことを把握できた段階で、<b>事後対応するしかない</b>。</li></ul> |
| WAGRI上の複数のAPIをマッシュアップして、新サービスを効率的に開発 | <ul style="list-style-type: none"><li>将来的には、この「市況API」以外にもWAGRI上にある「気象データ」など、<b>様々なAPIとマッシュアップした「市況予測」などの新サービスも効率的に開発</b>できる。</li></ul>  | <ul style="list-style-type: none"><li>「気象データ」など、他のデータを他のプラットフォームや提供ベンダーから入手する必要があり、<b>その都度「個別の」契約やシステム接続等のデータ入手の対応が必要になり、やや煩雑</b>になる。</li></ul>   |